

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 639 号	氏名	川北 晃子
学位審査委員	主 査	池田 通	
	副 査	朝比奈 泉	
	副 査	筑波 隆幸	
論文審査の結果の要旨 1. 研究目的の評価 本研究は舌扁平上皮癌における miR-21（以下 miR-21）の発現について臨床病理組織学的に評価し、新たな miR-21 標的因子 DKK2 を介し口腔癌浸潤能を促進させる可能性について検討している。本研究は口腔癌浸潤の新たな経路の発見の可能性があり、研究目的として十分に妥当である。 2. 研究手法に関する評価 舌扁平上皮癌における miR-21 の発現と臨床病理学的因子との相関性、Wnt/β-catenin 経路における腫瘍抑制因子である DKK2 の発現について、in situ hybridization および免疫組織化学染色にて検討した。症例および生検材料は臨床的ならびに病理組織学的に十分検討可能な症例を用いた。また、機能解析も適切な手段により行われていた。以上の実験により舌扁平上皮癌における miR-21、DKK2 の発現や浸潤能との相関について確認することが可能であり研究手法は妥当であった。 3. 解析・考察の評価 miR-21 の過剰発現は癌細胞浸潤能と相関していることが明らかにされた。癌細胞浸潤能との相関性がみられたのに対し、生存率との相関が明らかでなかったという結果については、治療方法など他の因子が関与したためと考えられ、今後さらに検討する必要がある。 本研究で得られた知見は舌扁平上皮癌における浸潤メカニズムを解明する上でも非常に有用であり、今後の口腔癌治療へ分子標的治療薬、診断などへの応用へ貢献できることが期待される。 以上のように、本論文は舌扁平上皮癌において miR-21 が DKK2 を標的とし Wnt/β-catenin 経路を介して口腔癌浸潤を促進する可能性について明らかにしたもので、口腔癌の浸潤のメカニズムの解明や治療法の開発に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値すると判断した。			